

検索スキルを みがく

第③版

検索技術者検定3級 公式テキスト

一般社団法人 情報科学技術協会

[監修]

原田 智子

[編著]

吉井 隆明

森 美由紀

[著]

樹村房

監修者の言葉

「情報検索」という行為は、現代社会において私たちが日常生活を営む上で、不可欠のものとなっています。たとえば、今夜のディナーの店を探したり、抱えている持病について有効な対処方法を調べたりする上で、インターネット上で提供されているさまざまなサービスを活用して情報検索を行うことは、もはや当たり前のこととなりました。

さらに最近では、生成 AI サービスの登場により、「自然な質問によって情報を探す」こともできるようになりました。こうした状況下では一見、情報検索のスキルを身につけていなくとも、必要な情報を探せるように感じられるかもしれませんが、しかし、「情報に向き合う正しい態度」をもつことなく便利なツールを盲信的に使うことには、信頼性に欠ける情報に振り回されてしまうなどの思わぬ「事故」の危険が伴います。多くの先人が積み重ねてきたさまざまな有用なスキルを学ぶことは、「正しい態度」を身につける上で大いに役立ちます。

当協会では、1985 年以来、約 40 年間にわたって情報検索のスキルに関する検定事業を行い、現在は「検索技術者検定（通称、検索検定）」を実施しています。本書は、その「検索検定」の受検者に向けた書籍として、さらには日常生活の中で直面する情報検索のニーズに対して大いに役立つノウハウ集とすべく、各分野で信頼に足る情報資源や有用な検索手法に関して豊富な知識や経験をもった第一人者の方々に編集・執筆を担っていただき、出版に至ったものです。編著者各位の熱心な取り組みによって、情報検索スキルに関する、現時点での実務的な集大成となったと確信しております。

皆さまが本書の内容を学び、実践することで、現代社会に不可欠な「情報に向き合う正しい態度」を身につけられることを願っております。さらには、「検索検定」の受検や、当協会主催のイベントへの参加・発表などの活動を通じて、「情報のプロフェッショナル」としての研鑽を重ね、情報のあふれる社会の中で存分に活躍されることを期待しております。

2024 年 7 月

一般社団法人 情報科学技術協会
会長 清田 陽司

第3版の序

現代は情報通信技術（ICT）社会といわれるように、パソコンやスマートフォンさえあれば、何か知りたい情報をすぐにインターネットで探す（＝検索する）時代になっています。また生成 AI サービスが急速に進展して、検索エンジンへの搭載も始まっています。「検索」が日常的に身近になっている一方で、フェイクニュースに惑わされたりしないように、正しい情報や信頼できる情報かどうかを見極める力が必要になってきています。

しかし、一言で情報を探すといっても、美術館の住所を知りたいという簡単な内容から、学術研究・企業戦略に必要な文献検索や、ある特許に関する先行情報を調べたいというような高度な検索まで、情報要求のレベルや内容は多種多様です。こうしたさまざまな検索の方法や考え方について学ぶことは、現代社会を生き抜くために必須のスキルになっているといっても過言ではありません。

本書は、一般社団法人 情報科学技術協会（INFOSTA）が実施する検索技術者検定（略称：検索検定）の3級の受験を目指す方々のための公式テキストとして企画・編集したものです。初版を2018年10月に、第2版を2020年5月に刊行しましたが、この間にネットワーク情報資源のサービス変更が多くみられ、この度第3版を刊行することになりました。ただし、情報資源やサービスの変更は今後も頻繁に発生すると思われます。読者の皆様も、本書を参考にしながら、常に新しい情報を確認するようにしていただければと思います。

検索技術者検定の詳細は巻末の付録に述べたとおりですが、3級の試験は2020年度から、会場型 CBT（Computer Based Testing）方式に変更され、全国47都道府県の会場で自分の都合に合わせた受験が可能になっています。

検索技術者検定は1985年に始まった伝統ある試験ですが、2024年度からすべての級で会場型 CBT 方式の試験に変わり、3級、準2級、2級、1級と4段階のレベルに分けて実施されるようになりました。3級は一般社会人、大学生、専門学校生、図書館員を対象に、検索に興味のある方であれば誰でも受験できる内容になっています。3級に合格したら、是非上位の級を目指してキャリアパスを築いていただければと思います。

本書の章立ては試験範囲に対応して5章で構成されています。各章の冒頭にその章で学習する内容を「学習のポイント」として示しています。1章では情報検索に関する基本的な知識や理論について解説しています。検索がどのような仕組みでなされているのか、自分の欲しい情報を得るための考え方および得られた検索結果の評価の仕方を学習することができます。2章では情報および情報資源の種類、情報資源の組織化、データベース等について述べています。はじめにデータ、情報、知識の体系を整理し、次に情報資源の種類を詳しく紹介しています。そして情報資源を検索できるように組織化する方法およびデータベースの定義や種類についても解説しています。さらに情報サービス機関や情報専門家

(インフォプロ)についても解説しています。3章では検索エンジンの特徴と検索の仕組み、知っていると便利なネットワーク情報資源を紹介しています。検索エンジンでは検索できない情報資源が多く存在を知ることができるでしょう。4章では知的財産権の種類やその内容について具体的に紹介しています。現代社会では、情報や情報資源を扱う人々にとって、知的財産権の知識はとくに重要です。知的財産権の中でも、情報を扱う上で重要な著作権については詳しく解説し、わが国の著作権法の重要な条文との関係を丁寧に説明しています。5章では検索に欠かせないネットワーク社会の問題、コンピューターに関する基礎知識、情報セキュリティの知識について解説しています。情報セキュリティについての正しい知識を学習することによって、情報や情報資源を安全に扱うことができるようになるでしょう。最後に、情報検索について初めて体系的に学習する方のために、本文中に出てくる基本的な専門用語を取り出し、それらの用語解説を掲載しました。本書を学習する際の手助けとなると思われますので活用していただければと思います。

先にも述べましたように、本書の内容は、執筆時における最新情報を確認して収録しておりますが、とくに情報資源、規格 (ISO や JIS)、法令等に関しては今後、時代の動きに合わせて変更も生じる可能性があります。本書の内容を実際に検索しながら学習することで、補完していただければと思います。

本書は検索技術者検定の公式テキストとして作成されていますが、大学の授業用教科書あるいは情報検索の入門セミナー用テキストとしても利用していただけます。さらには、より効果的な検索をしたいと考えている一般の方々が自学自習するためにも、活用していただける内容になっています。検索の基本的知識を本書で確認し、読者の方々の「検索スキルをみがく」ことにつながることを願っています。

さらに検索について深く学びたい方、準2級や2級受験のためには、『プロの検索テクニック 第3版：検索技術者検定 準2級・2級 公式推奨参考書』(2024年3月刊行)もご活用いただければと思います。

最後に、本書の出版にあたり、樹村房社長の大塚栄一様と編集部の石村早紀様には、一方ならぬお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

2024年7月

編集責任者 原田 智子

検索スキルをみがく 第3版

もくじ

監修者の言葉 iii

第3版の序 v

1 章 情報検索	1
1.1 情報検索とは	1
1.2 情報検索の理論と仕組み	3
1.2.1 論理演算と検索式	3
1.2.2 トランケーション	8
1.2.3 検索の仕組み	12
1.3 情報検索のプロセス	16
1.3.1 情報要求から検索記録の保存まで	16
1.3.2 検索終了後の原報入手	18
1.4 検索結果の評価	18
1.4.1 顧客満足度による評価	19
1.4.2 再現率と精度による評価	19
2 章 情報資源と情報サービス機関	23
2.1 データと情報	23
2.2 一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類	24
2.2.1 一次情報と一次資料	25
2.2.2 二次情報と二次資料	31
2.3 ネットワーク情報資源	34
2.3.1 デジタルコンテンツ (digital contents)	34
2.3.2 データベース (database)	37
2.3.3 デジタルアーカイブ (digital archive)	38
2.3.4 ポータルサイト (portal site)	40
2.4 情報資源の組織化	40
2.4.1 目録と目録法	40
2.4.2 分類と分類法	43
2.4.3 件名標目表とシソーラス	45
2.4.4 情報資源の識別子	47
2.5 情報サービス機関と情報サービス	51

2.5.1	図書館における情報サービス	51
2.5.2	日本の主な情報サービス機関と情報サービス	53
2.5.3	情報サービスを担うインフォプロ	54
3 章	ネットワーク情報資源の検索と種類	56
3.1	情報通信技術社会におけるネットワーク情報資源	56
3.2	ネットワーク情報資源の検索	57
3.2.1	ネットワーク情報資源と検索エンジン	57
3.2.2	検索エンジンの種類	57
3.2.3	検索エンジンによる検索時の注意事項	59
3.2.4	深層ウェブにおける情報検索	60
3.3	ネットワーク情報資源の種類	65
3.3.1	主なネットワーク情報資源	65
3.3.2	ネットワーク情報資源とその概要	68
4 章	知的財産権	91
4.1	知的財産権の体系	91
4.2	産業財産権	93
4.3	著作権	95
4.3.1	著作権法の歴史	95
4.3.2	著作権に関する主な国際条約	95
4.3.3	著作権法と著作物	97
4.3.4	著作権法の権利体系	98
4.3.5	著作権の権利制限	99
4.3.6	著作権の存続期間	102
4.3.7	公衆送信権と送信可能化権	103
4.3.8	クリエイティブ・コモンズ	104
5 章	ネットワーク社会と情報セキュリティ	106
5.1	ネットワーク社会の諸問題	106
5.2	ネットワーク社会の法制度	107
5.3	コンピューターに関する知識	108
5.3.1	コンピューターの種類	108
5.3.2	コンピューターの基本構成	109
5.3.3	記憶装置と記憶媒体	109

5.3.4	オペレーティングシステムとアプリケーションソフトウェア	111
5.3.5	プログラム言語	111
5.3.6	マークアップ言語	111
5.3.7	情報量の単位	115
5.3.8	文字の表現	116
5.3.9	テキストファイルとバイナリーファイル	117
5.4	インターネットに関する知識	118
5.4.1	ネットワークの形態	118
5.4.2	インターネットの基礎	118
5.4.3	回線の種類	121
5.5	情報セキュリティに関する知識	122
5.5.1	情報資産	123
5.5.2	情報セキュリティの管理	123
5.5.3	情報セキュリティの脅威	124
5.5.4	情報セキュリティの対策	127
付録	検索技術者検定の概要と試験範囲	131
用語解説		135

【本書の執筆分担】（執筆順）

1 章	原田智子	4 章	吉井隆明
2 章	森美由紀, 原田智子	5 章	吉井隆明
3 章	原田智子		

◎本書の内容に補遺が生じた場合は、樹村房のウェブページよりお知らせします。

<https://www.jusonbo.co.jp/>

◎本書では、外来語のカタカナ表記については、原則として、以下の JIS Z 8301:2019 および文化庁公開の『外来語（カタカナ）表記ガイドライン』に基づいて記載しています。

- JIS Z 8301：規格票の様式及び作成方法
- テクニカルコミュニケーター協会、外来語（カタカナ）表記ガイドライン 第3版：2015年8月制定. 2015. 49p. https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/kokugo_kadai/iinkai_45/pdf/93390601_09.pdf, (参照 2023-12-10).

1 章

情報検索

〈1章 学習のポイント〉

情報検索の基本理論である論理演算（論理積，論理和，論理差），近接演算，トランケーション（前方一致検索，後方一致検索，中間一致検索，中間任意検索），完全一致検索について学習し，検索したいテーマに対する検索式を作成できるようにする。次に，検索者が検索語や検索式を入力したとき，データベース内で行われている検索の仕組み（索引ファイル，形態素解析，N グラム法，類似文書検索）について理解する。情報検索の受け付けから終了までのプロセスを理解し，検索結果の評価方法では，特に再現率と精度に関する考え方を学ぶ。

1.1 情報検索とは

情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）の発達した今日，情報検索は人々の日常生活にとって欠かすことができない行為の一つとなっている。1950 年に米国のムーアズ（Calvin N. Mooers）が information retrieval（情報検索）という用語を初めて定義し，1960 年代になって広く使用されるようになった。1960 年代半ばに米国においてコンピューターによる情報検索システムが開発されたが，電話回線を通じてオンライン検索サービスが提供されるようになったのは，1970 年代に入ってからのことである。当時は情報を提供する図書館員が検索を行っており，今日のように一般の人が気軽に検索ができる時代ではなかった。わが国においては，1980 年代からオンライン検索がサーチャー（searcher）によって，業務として行われていた。1995 年以降にインターネットが大衆化し，通信機器の進展や多様化ともあいまって，21 世紀に入って誰でも必要な情報を気軽に探せる環境が整ってきた。

なお，1980 年代以降，情報検索の専門家をサーチャーと呼んでいたが，2000 年代以降になると単に情報検索を行うだけでなく，得られた情報を分析・加工する業務や通信環境の整備などを含めた，情報専門家としての役割にも重点が置かれるようになってきた。このような情報業務に就く専門家をインフォプロ（information professional：インフォメーションプロフェSSIONナルの略称）と呼ぶようになっている。

情報検索は Information Retrieval（IR）の訳語であり，あらかじめ蓄積された情報集合から，ある特定の条件に合致した情報のみを取り出すことであり，情報の蓄積（storage）

が前提となっている。実際には、検索者が検索したい内容を言葉や記号などで表現して、情報検索システムあるいは検索エンジンなどを使用して、情報が蓄積されているデータベースやウェブページを検索する。現在の情報検索システムでは、写真、意匠、化学構造式などの画像を使用した画像検索ができるようになってきているが、言葉（検索語）を入力して行う検索方法が主流を占めている。そのため、どのような検索語を使用して検索するかが、情報検索におけるカギとなる。

ウェブページとは、ウェブブラウザで一度に表示できるひとまとまりの情報をいう。そのウェブページを対象とする情報検索では、専門用語、ニュースなどに出てくるような一般用語や俗語など、さまざまな表記による情報が蓄積されている。そのため検索するには、検索対象とするウェブサイトやウェブページに適した検索語を使用する必要がある。このような検索においては、的確な検索語を使用することが、検索者に任されている点に注意が必要である。文字を中心とした情報検索では、データベース中に入力した検索語と一致する文字列が存在するかどうかという、文字の表記の一致を調べるのが基本になっているため、入力した検索語の同義語を検索することはそのままでは難しい。例えば、図書の同義語である本、書籍、書物、ブックなどの言葉はすべて入力する必要がある。このように文字列が一致しているかどうかということが基本になっているウェブページの検索では、同義語や表記のゆれなどを登録した辞書などを介する仕組みを検索システムにもたせないかぎり、意味を考えた概念的な検索を実行することは難しい。Google、Microsoft Bing、Yahoo! JAPAN では、検索語の入力ミスによる表記の間違いや表記のゆれなどを補完してくれる機能があるが、そのような機能をもたない検索エンジンや情報検索システムもある。

情報検索の元となる情報要求は、大別すると二種類ある。一つは求める情報が明確である場合である。ある大学の住所を知りたいとか、特定の読みたい図書がこの図書館に所蔵されているかなど、利用者の知りたい情報がはっきりしている場合であり、これを既知情報検索という。もう一つは、漠然とした情報を探している場合で、子どもを対象としたおはなし会で紹介するためのよい絵本はないかとか、環境保全に関する文献を知りたいなど、求める情報がどのくらい存在するかわからないとか、あいまいな情報を探している場合であり、これを未知情報検索という¹。この未知情報検索では、検索された情報について知ることはできるが、検索漏れを起こした情報については気づきにくいという問題点が潜んでいる。

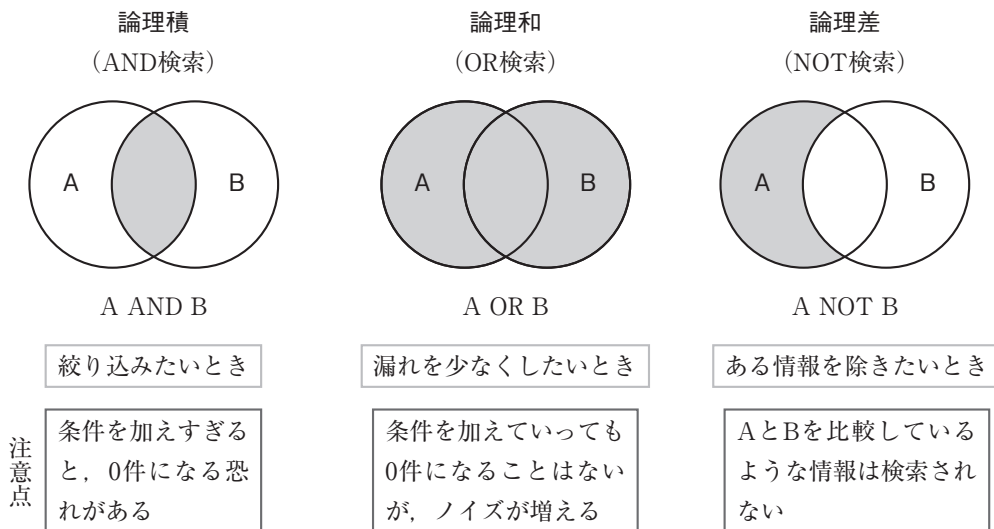
1：ここでは検索という語を使用した。一般には既知情報探索、未知情報探索という場合の方が多い。一般に、探索は検索よりも広い概念で用いられる言葉である。探索という場合は、必ずしも蓄積が前提となっているとは限らない。英語の seek（探索する）が使用される言葉に、information seeking behavior（情報探索行動）がある。一方、retrieval とほぼ同義で使用される言葉に search があり、search も検索と訳されることが多い。

1.2 情報検索の理論と仕組み

コンピューターによる情報検索の基本は、集合と集合の論理演算によって行われる。1-1図に示したように、AとBという二つの検索語を使用して検索する場合、検索対象として使用するデータベースやウェブページの中を調べ、検索語Aに一致する情報を探して「集合A」が作成される。また別の検索語Bに一致する情報を探して「集合B」が作成される。これらの検索結果である「集合A」と「集合B」の論理積、論理和、論理差という各論理演算を行うことにより、最終的な検索結果が得られる。なお、一つの検索語だけを入力する検索（ワンタームサーチという）は、通常膨大な検索結果になる恐れがあるため、二つ以上の検索語を使用して検索結果を絞り込む方法が一般的に行われている。

1.2.1 論理演算と検索式

二つ以上の検索語を組み合わせるための論理演算には、論理積（AND 検索）、論理和（OR 検索）、論理差（NOT 検索）の3種類がある。1-1図は、二つの検索語を使用して検索する場合のベン図（Venn diagram）²を示している。多くの情報検索システムにおいて、論理積ではAND演算子を、論理和ではOR演算子を、論理差ではNOT演算子を使用して検索する。検索語と検索語の間に使用して論理演算を実行するこれら3種類の演算子を、



1-1 図 論理演算の種類と注意点

2：ベン図とは、英国の論理学者 John Venn がオイラーの図（Euler diagram）を進展させて、集合の関係をわかりやすくするため、全体集合を長方形で、部分集合を円で表した図のことである。1-1図では、全体集合を表す長方形を省略した形式で記載している。

論理演算子 (logical operator) という。実際に検索する場合、論理演算子は小文字でも大文字でもかまわない場合と、それらを区別する場合がある。使用する情報検索システムの検索マニュアルや検索エンジンのヘルプなどで確認するとよい。入力する際には、検索語と論理演算子の間には、半角スペースが必要である。Google や Microsoft Bing などの検索エンジンによるウェブ検索や、図書館の OPAC (Online Public Access Catalog: オンライン閲覧目録) を検索する場合では、AND 演算子はスペースに置き換えることができる。すなわち、AND 演算子を省略することができる。そして、二つ以上の検索語とこれらの論理演算子を組み合わせて作成した式を検索式という。

(1) 論理積

A という検索語を含む情報の集合と B という検索語を含む情報の集合の両方を含む部分を検索することを、論理積あるいは AND 検索という。例えば、「図書館における情報サービス」というテーマを検索したい場合、検索語 A として「図書館」を、検索語 B として「情報サービス」と考えれば、「図書館 AND 情報サービス」という検索式を入力することになる。その結果、1-1 図の灰色部分が、二つの検索語が共存する積集合 (円が交わっている部分) として得られる。論理積は、条件を加えて検索結果を絞り込みたいときに行う。ただし、「A AND B AND C AND D AND E」というように、検索語 C、検索語 D、検索語 E を加えていくと、A から E のすべての検索語が共存する条件に合致する情報が存在せず、検索結果が 0 件になる場合もある。

(2) 論理和

A という検索語を含む情報の集合と B という検索語を含む情報の集合のいずれか一方の検索語を含む情報の集合部分と、A と B の両方の検索語を含む情報の集合部分すべてを検索することを論理和あるいは OR 検索という。論理和には、論理積の結果が含まれることに注意が必要である。例えば、「図書」に関する情報を漏れなく検索したい場合、「図書」という検索語のほかに「本」「書物」「書籍」などの同義語を、OR 演算子を使用して「図書 OR 本 OR 書物 OR 書籍」と入力すると、これらの検索語を含む情報の集合を漏れなく検索することができる。このように同義語をいろいろと入力することにより、検索漏れを少なくしたい場合に論理和を行うとよい。

また、「図書館と博物館における展示」というようなテーマでは、「(図書館 OR 博物館) AND 展示」と入力することで、欲しい情報を得ることができる。この場合、「図書館と博物館」と表現されているが、「と」と書かれているから AND 演算子を使用するというのではなく、検索テーマの意味をよく理解することが重要である。この場合はテーマの意味から、図書館と博物館の間には OR 演算子を使用することが適切である。

AND 演算子と OR 演算子が同時に一つの検索式に存在する場合は、通常 AND 演算子が

優先される。そのため、OR 演算子を先に処理したい場合は、先に処理したい論理演算の方を丸カッコ () で囲む必要がある。算数における足し算と掛け算の演算処理と同じである。ただし、検索エンジンによる検索の場合はこの限りではない。検索式は数式と同様に、左から右へと処理することが基本であるため、検索エンジンでは OR 演算子が AND 演算子よりも左側にあると OR 演算子から先に処理される。一方、商用情報検索システム³では、論理演算子の演算処理の優先順位は情報検索システムごとに決められている。AND 演算子と OR 演算子が一つの検索式に同時に存在する場合は、通常どの情報検索システムでも、丸カッコ () を使用していなければ、AND 演算子がどこにあっても先に処理される場合が多い。OR 演算子は、AND 演算子と次に説明する NOT 演算子と比べて、演算処理の優先順位が最も低い。

(3) 論理差

A という検索語を含む情報の集合から B という検索語を含む情報の集合部分を除いた部分を検索することを、論理差あるいは NOT 検索という。したがって、この検索では A と B の両方の検索語を含む情報は削除される。例えば、「鈴木一郎が書いた論文から山田次郎との共著を除いた論文が欲しい」という検索テーマでは、「鈴木一郎 NOT 山田次郎」と入力する。この検索式で検索すると、鈴木一郎が書いた論文だけが検索され、鈴木一郎の書いた論文の中から山田次郎との共著の論文は除かれる。

論理差を行う場合は、入力した検索語の両方を含む集合部分が除かれるため、上記のような著者名検索ではなくキーワード検索を行う場合は、入力した二つの検索語を比較検討しているような情報が検索されなくなるので注意する必要がある。例えば、「犬 NOT 猫」という検索式で検索すると、犬だけについての情報が検索され、犬と猫について両方扱った情報は検索されない。すなわち、犬と猫の共通点や違いが述べられているような情報が除かれる。なお、商用情報検索システムでは、通常 NOT 演算子は OR 演算子より先に処理されるが、AND 演算子との関係はシステムにより異なる場合が多い。そのため、使用する商用情報検索システムの検索マニュアルやヘルプで必ず確認することが重要である。

上述した 3 種類の論理演算を使用した検索は、検索エンジンでも行うことができる。検索ボックスが一つの場合は、そこに複数の検索語を半角スペースで区切って入力したり、OR 演算子や NOT 演算子を使用したりして検索する。Google で NOT 演算を行う場合は、- (半角ハイフン) 記号を除きたい検索語の前にスペースを空けずに直接付けて使用する。

3：商用情報検索システムとは、商売として有料でサービスする情報検索システムのことをいう。利用したい場合は、契約が必要となる。契約が完了すると利用者 ID とパスワードが発行される。例えば、JDreamⅢ、G-Search、日経テレコン、Dialog、CAS STNext などが、わが国で長期にわたって利用されてきた主な商用情報検索システムである。その詳細は、3 章の 3-1～3-5 表で述べている。

検索技術者検定の概要と試験範囲

1. 検索技術者検定の経緯

一般社団法人 情報科学技術協会（INFOSTA）が 1985 年に開始したデータベース検索技術者認定試験は、その後情報検索能力試験（応用・基礎）という名称変更を経て、2014 年度から「検索技術者検定」（略称：検索検定）という名称で、毎年実施されている。

2020 年度から、3 級試験が会場型 CBT（Computer Based Testing）方式となり、全国の都道府県の会場で実施されている。2024 年度からは、準 2 級が新設され、2 級と 1 級も含めて、すべての級が紙試験から会場型 CBT 方式に変更された。

2. 検索技術者検定の概要

検索技術者検定は、情報検索に関する知識やスキルを客観的に評価する試験である。試験方式は変更されるが、3 級、準 2 級、2 級、1 級で求められる能力のレベル変更はない。2024 年度以降の概要は、次ページに示した付録-1 表のとおりである。

本書は、検索技術者検定 3 級の公式テキストであり、試験内容や範囲に沿って構成されている。その内容は目次を一覧することで概要を把握することができる。3 級は、「検索」に興味のある人であれば誰でも受験できる。実際の設問は、情報検索の基本的な知識とスキルを問うものであり、本書を勉強することで、合格に必要な基礎知識を身につけることができる。設問は、すべて選択肢問題の形式となっている。パソコンの画面に出題される問題を見ながら解答する。合否判定は、受験終了後すぐに表示される。公示された期間内であれば、受験料はかかるが再受験も可能である。

3. 体験版、過去問、練習問題の活用

検索技術者検定 3 級のウェブページには、CBT の画面操作が体験できる体験版、過去問と練習問題が掲載されているので、受験に際して活用されることをお勧めする。

付録-1 表 検索技術者検定の各級における試験概要

	3 級	準 2 級	2 級	1 級
試験の対象者	一般社会人や情報関係の授業を履修した大 学生および専門学校生、図書館員等を想定 しています。受験に際して必要な資格はあ りません。	一般社会人、情報関係および情報活用等の授業を履修した大学生や専門 学校生、図書館員、組織において情報検索業務に従事している人、ある いは自身で情報収集活動を実施している人等を想定しています。 なお、準 2 級は受験に際して必要な資格はありませんが、2 級は検索技 術者検定準 2 級合格者を対象としています。		組織において情報検索業務に従事しており、 実務経験が豊富な人、情報活動に関する高 い知識とスキルを有する上級情報担当者等 を想定しており、かつ、検索技術者検定 2 級（情報検索応用力試験 2 級、データ ベース検索技術者認定試験 2 級含む）合格 者を対象としています。
試験レベルと 範囲	自身の活動に役立てるために、適切な情報 を効率よく収集し、活用する能力が求めら れます。ビジネスの場あるいは大学での学 習、図書館等での情報サービスに必要とさ れる信頼性の高い情報を検索・入手して活 用できる基本的な情報検索に関する知識と スキル、知的財産権、コンピューター、 ネットワーク、情報セキュリティ等に関す る知識のレベルを認定するものです。	試験レベル（準 2 級） 実際のビジネスの場で情報検索を 行う際に必要とされる知識やスキ ルについての判断力を有している かを認定するものです。	試験レベル（2 級） 準 2 級試験で確認できた正確な知 識やスキルをもとに自身の経験等 も踏まえて、各専門分野における 情報検索を、より高度に実践でき る能力を認定するものです。	インフォプロ（情報専門家）としての知識、 スキル、経験、考え方、マネジメントスキ ル、ユーザー教育、指導育成力、部門間調 整力や問題解決力、プレゼンテーション能 力を認定するものです。
		試験範囲（準 2 級・2 級共通） 情報資源、データベース、検索システム、情報要求者とのコミュニケー ション、情報の分析と活用、問題解決、コンピューター、情報セキュ リティ等に関する知識やスキルに関するレベルを認定するものです。 主題分野は、ライフサイエンス & 化学、特許、ビジネス、図書館情報の 4 分野が設定されています。		
出題形式	選択式	選択式	記述式	一次：記述式または論述式 二次：プレゼンテーション＋面接
合否判定	試験終了後すぐに判定	試験終了後すぐに判定	後日判定	後日判定

4. 検索技術者検定に関する最新情報

準2級が新設されるなど2024年度から試験制度が変更になったため、受験に当たっては、INFOSTA の「検索技術者検定」のウェブページを必ず参照していただきたい。

- 一般社団法人 情報科学技術協会「検索検定」

<https://www.infosta.or.jp/examination/>



5. 検索技術者検定 3 級「会場型 CBT 方式」受験の概略

検索技術者検定（略称：検索検定）3 級の概略は、付録-1 図のとおりである。



付録-1 図 検索技術者検定 3 級受験の概略

[監修]

一般社団法人 情報科学技術協会

[編著者]

原田 智子（はらだ・ともこ）

学習院大学理学部化学科卒業

慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻修士課程修了

財団法人 国際医学情報センター業務部文献調査課長，産能短期大学教授，鶴見大学文学部教授，鶴見大学寄附講座教授を経て

現在 鶴見大学名誉教授

データベース検索技術者認定試験（現 検索技術者検定）1 級取得（1986 年度）

主著 『三訂 情報検索演習』（編著）樹村房，『改訂 レファレンスサービス演習』（共著）樹村房，『情報アクセスの新たな展開』（分担執筆）勉誠出版，『情報検索の基礎知識：情報検索基礎能力試験対応テキスト 新訂 2 版』（編著）情報科学技術協会，『改訂 情報サービス論』（編著）樹村房，『情報検索の知識と技術 基礎編：検索技術者検定 3 級テキスト』（共著）情報科学技術協会，『図書館情報学基礎資料 第 5 版』（共著）樹村房，『三訂 情報サービス演習』（編著）樹村房，『プロの検索テクニック 第 3 版：検索技術者検定 準 2 級・2 級 公式推奨参考書』（編著）樹村房，ほか

[著者]

吉井 隆明（よしい・たかあき）

慶應義塾大学経済学部卒業

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位取得満期退学

大蔵省印刷局，独立行政法人国立印刷局を経て

現在 文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官，公認不正検査士，教育士（工学・技術），技術士補（情報工学部門）

主著 『情報検索の知識と技術 基礎編：検索技術者検定 3 級テキスト』（編著）情報科学技術協会，『CD-ROM 版 情報検索の演習 新訂版』（共著）日外アソシエーツ，『情報検索の基礎知識』（分担執筆）情報科学技術協会，ほか

森 美由紀（もり・みゆき）

大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程修了

日本アスペクトコア株式会社 ライブラリーサービス営業部，豊中市役所 政策企画部（嘱託）を経て

現在 梅花女子大学文化表現学部情報メディア学科准教授

主著 『情報検索の知識と技術 基礎編：検索技術者検定 3 級テキスト』（共著）情報科学技術協会，ほか

検索スキルをみがく 第3版

——検索技術者検定 3級 公式テキスト

2018年10月17日 初版 第1刷発行
2019年6月27日 初版 第2刷
2020年5月27日 第2版 第1刷発行
2021年11月12日 第2版 第2刷
2024年8月20日 第3版 第1刷発行

検印廃止

監修者 一般社団法人
情報科学技術協会
編著者 原田 智子
発行者 大塚 栄一

発行所 株式会社 樹村房
〒112-0002
東京都文京区小石川5丁目11番7号
電話 東京03-3868-7321
FAX 東京03-6801-5202
<https://www.jusonbo.co.jp/>
振替口座 00190-3-93169

表紙デザイン／菊地博徳 (BERTH Office)
組版・印刷／美研プリンティング株式会社 製本／有限会社愛千製本所
©Tomoko Harada, Takaaki Yoshii, Miyuki Mori 2024 Printed in Japan
ISBN978-4-88367-394-0 乱丁・落丁本はお取り替えいたします。